

授業科目名	安全作業（1）			開講年度・時期	2027年度 修了期
担当者名	内田 景己	単位数	1	総校時数	30
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘りの甲種石炭鉱山にて保安技術管理業務を15年間、金鉱脈探 鉱調査の鉱山にて保安監督業務を3年間の実務経験あり				
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（講義・演示・計算演習・実習併用）				
授業の内容 （授業科目 の概要）	「災害事例研究の演習」を通して、安全作業の基礎となる「災害・リスクの分析等」の安全活動を繰り返し行うこと で、「安全作業用語」と「やり方・手法」を再確認する。 また、「災害事例研究の演習」を通して「雇入れ時教育」の内容を理解する。				
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュール）	<p>【災害事例研究】 災害事例にて、災害・リスクの分析等、災害事例研究の演習を通してリスクアセスメントの手法を知る ◎分析方法（4(5)M・4E災害分析）（なぜなぜ分析）（ポータイ分析）（リスクアセスメント型KY活動） ◎リスクアセスメント型の対策の樹立（作業手順・危険予知・KY活動） ◎ジョハリの4つの窓・スイスのチーズモデルの確認（ヒヤリハット報告・リスクアセスメント活動） ・作業前・作業後の打合わせ演習（4S活動） ・ポータイ分析と対策バリアの構築リスクアセスメントの演習 ・リスクアセスメント型対策の演習 ・PDCAサイクルと改善提案の演習</p> <p>【雇入れ時教育】 ☑ 雇入れ時や作業内容変更時は、以下の事項について教育を行う必要があります。 災害事例研究を通して、以下の教育内容を理解する☑ (1) 機械等、原材料等の危険性又は有害性及びこれらの取扱い方法に関すること☑ (2) 安全措置、有害物抑制装置又は保護具の性能及びこれらの取扱い方法に関すること☑ (3) 作業手順に関すること☑ (4) 作業開始時の点検に関すること☑ (5) 当該業務に関して発生するおそれのある疾病の原因及び予防に関すること☑ (6) 整理、整頓及び清潔の保持に関すること☑ (7) 事故時等における応急措置及び退避に関すること (8) 前各号に掲げるもののほか、当該業務に関する安全又は衛生のために必要な事項</p> <p>理解度判定（演習）</p>				
到達目標	「災害事例研究の演習」を通して、安全作業の基礎となる「災害・リスクの分析等」の「安全作業用語」と「やり方・手法」を理解する。 それによって、「雇入れ時教育」の内容を理解する。				
成績評価の方法・基準	課題についての試験又は提出物（レポート） 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか）				
受講にあたっての留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。				
使用教科書・参考文献等	書名	著者名・出版社		ISBN	
	講師が作成した説明資料を配布				

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	安全作業（2）			開講年度・時期	2027年度 修了期
担当者名	内田 景己	単位数	1	総校時数	30
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘りの甲種石炭鉱山にて保安技術管理業務を15年間、金鉱脈探 鉱調査の鉱山にて保安監督業務を3年間の実務経験あり				
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（講義・演示・計算演習・実習併用）				
授業の内容 （授業科目 の概要）	「災害事例研究の演習」を通して、安全作業の基礎となる「災害・リスクの分析等」の安全活動を繰り返し行うこと で、「安全作業用語」と「やり方・手法」を再確認する。 また、「災害事例研究の演習」を通して「職長教育」の内容を知る。				
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュール）	<p>【災害事例研究】 災害事例にて、災害・リスクの分析等、災害事例研究 の演習を通してリスクアセスメントの手法を知る ◎分析方法（4(5)M・4E災害分析）（なぜなぜ分 析）（ポータイ分析）（リスクアセスメント型KY活 動） ◎リスクアセスメント型の対策の樹立（作業手順・ 危険予知・KY活動） ◎ジョハリの4つの窓・スイスのチーズモデルの確認 （ヒヤリハット報告・リスクアセスメント活動） ・作業前・作業後の打合わせ演習（4S活動） ・ポータイ分析と対策バリアの構築リスクアセスメント の演習 ・リスクアセスメント型対策の演習 ・PDCAサイクルと改善提案の演習</p> <p>【職長教育】 使用者は、新たに就く職長や、労働者を直接指導・監督する 者に対して安全衛生教育を実施しなければなりません（労安 衛法60条）☑ 災害事例研究を通して、以下の教育内容を理解する (1) 作業方法の決定及び労働者の配置に関すること (2) 労働者に対する指導又は監督の方法に関すること (3) 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる 措置等に関すること (4) 異常時、災害発生時における措置に関すること (5) その他現場監督者として行うべき労働災害防止活動に関 すること (6) 安全衛生責任者の職務等（安全衛生責任者と兼任する場 合） (7) 統括安全衛生管理の進め方（安全衛生責任者と兼任する 場合） 理解度判定（演習）</p>				
到達目標	「災害事例研究の演習」を通して、安全作業の基礎となる「災害・リスクの分析等」の「安全作 業用語」と「やり方・手法」を理解する。 それによって、「職長教育」の内容を知る。				
成績評価の 方法・基準	課題についての試験又は提出物（レポート） 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか）				
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間 やレポート提出などの約束事は必ず守ること。				
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN		
	講師が作成した説明資料を配布				

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	危険体感訓練（2）			開講年度・時期	2027年度 修了期
担当者名	内田 景己	単位数	1	総校時数	30
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘りの甲種石炭鉱山にて保安技術管理業務を15年間、金鉱脈探 鉱調査の鉱山にて保安監督業務を3年間の実務経験あり				
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（講義・演示・計算演習・実習併用）				
授業の内容 （授業科目 の概要）	災害事例研究と危険体感の演習を通じて、「災害に関連する用語」について理解度を高め、危険の感受性を高めると ともに、危険の察知能力及び危険の回避能力を高める。 また、応急手当のやり方と緊急対応についても「関連する用語」を学び、その重要性を知る。				
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュー ル）	災害分析のやり方を学ぶ 危険体感訓練の演習に関連する災害事例研究を併せて行 い、災害の原因及び要因を理解する。 分析方法（4(5)ME災害分析） （なぜなぜ分析） （ポータイト分析） （リスクアセスメント型KY活動） 図上訓練演習の目的と効果を学ぶ 応急手当の演習（知っておきたい応急手当） 徒手搬送法（担架を用いない搬送法） 理解度判定（演習） 危険体感訓練演習の目的と効果を学ぶ ・危険体感演習（ヘルメット・安全靴） ・危険体感演習（滑り・転倒） ・危険体感演習（階段歩行） ・危険体感演習（カプラー残圧） ・危険体感演習（高圧カー水圧） ・危険体感演習（足場及び梯子） ・危険体感演習（漏電遮断器）				
到達目標	災害事例研究を通して「災害に関連する用語」について理解度を高める。 危険体感訓練演習を通じて、危険に対する感受性を高め、危険の察知能力と回避能力を高める 「体感訓練」の重要性を知る。 危険体感訓練演習に合わせた災害事例を活用し、応急手当と緊急対応を知る。				
成績評価の 方法・基準	課題についての試験又は提出物（レポート） 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか）				
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。 講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。				
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN		
	絵で見る労災、災害事例集	アジアクリエイト株式会社			
	講師が作成した説明資料を配布				

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。